

縄文時代晚期（約3000年～2500年前）

縄文時代晚期の土器がまとまって出土しています。住居跡などの明確な遺構はみつかっていませんが、蛭子田遺跡周辺に人が住み始めたことがうかがえる遺物です。



縄文時代の土器

弥生時代中期（約2000年前）

方形周溝墓(15m×16m)が1基みつかりました。埋葬する主体部はすでになくなっていましたが、溝の中から供えられた土器が出土しました。



方形周溝墓出土の土器

古墳時代後期（約1600年～1500年前）

弥生時代後期から古墳時代前期に営まれたムラも、木村古墳群が築かれた古墳時代中期（約1600年前）には一時途絶えてしまいます。しかし、古墳時代後期（約1500年前）になると、ふたたび人々が住むようになります。居住形態は古墳時代前期と同じく竪穴住居ですが、この時期の竪穴住居には、大陸から新たに伝わったカマドが造り付けられています。

また、川跡も前期とは少し規模を変えていますがみつかっています。川跡からは土師器をはじめ、古墳時代中頃に新たに大陸より伝わった技術で作られた須恵器（すえき）と呼ばれる窯で焼かれた硬い土器、農具・大型の容器や建築部材・下駄など多量の木製品が出土地でいます。なかでも木製壺燈は、全国的にも出土事例の少ない非常に珍しい遺物です。

注目する遺物に徳利形平底壺（とっくりがたひらぞこつぼ）という須恵器の壺があります。名前のごとく徳利のような形をしたものですが、滋賀県内では本品を含め12点しかない珍しい土器です。渡来人に係わるある土器ともいわれています。

そのほか、外周約20mの円墳もみつかっており、木村古墳群との関係もうかがえます。



古墳時代初頭～前期の土器

飛鳥時代～平安時代（約1400年～1000年前）

古墳時代に流れていた川も大半は埋まってしまいます。まだ一帯は湿地のような状態だったようです。川の周囲には古墳時代に引き続きムラは営まれ、掘立柱建物や竪穴住居、布掘り建物（掘立柱建物の一つの形態）がみつかっています。平安時代になると水路が何本か掘削され、耕地化したことがうかがえます。そのうちの一つから、墨で文字が書かれた須恵器が出土しました。緑釉陶器（りょくゆうとうき）という緑色のうわぐすりをかけた土器なども出土しています。また、当時は寺院などの屋根にしか葺いていなかった瓦も幾点か出土しています。蛭子田遺跡付近には古代寺院は存在していないため、どうしてこの場所で瓦が出土したのか謎です。



古墳時代後期の土器

蛭子田遺跡現地説明会資料

一東近江市木村町一

平成23年7月16日（土）
財団法人滋賀県文化財保護協会



蛭子田遺跡（弥生時代中期、古墳時代前期～後期、平安時代の集落・墓）

木村古墳群（古墳時代中期、古墳群）・天狗前古墳群（古墳時代後期、古墳群 渡来系？）

雪野山古墳（古墳時代前期、古墳）・本郷遺跡（古墳時代後期、墓 奈良時代～平安時代、集落）

時代	国内での主な出来事	木村町周辺での主な出来事
縄文時代 約16000年～2500年前		永源寺の相谷熊原遺跡の土偶（約13000年前） ★蛭子田遺跡で縄文土器（約3000年前）が出土
弥生時代 約2500年～1750年前	稻作伝来 邪馬台国の卑弥呼	★蛭子田遺跡に方形周溝墓が造られる
古墳時代 約1750年～1400年前	仁徳天皇陵が築かれる	★蛭子田遺跡にムラが営まれ始める 雪野山古墳が築かれる 木村古墳群が築かれる 天狗前古墳群が築かれる
飛鳥時代 600年前後 645年 667年	聖德太子が活躍 大化の改新 大津に都（大津宮）遷す	てんじてんのう 天智天皇などが蒲生野で狩りを行う（668年） 石塔寺・宮井廃寺・綺田廃寺が造営される
奈良時代 742年 752年	しがらきのみや 紫香楽宮（甲賀市）を造営 東大寺の大仏が完成	本郷遺跡にムラが営まれ始める
平安時代 794年 901年 1008年	京都に都（平安京）遷す すがわらみちざね 菅原道真、大宰府へ左遷される おんみょうじ あべのせいめい 陰陽師 安倍晴明亡くなる	★蛭子田遺跡の墨書き土器 ★…蛭子田遺跡での出来事



川跡から出土した木製壺鎧

